圓福寺報

圓福寺報　第九十七号
令和八年十月十五日発行
発行者　臨済宗妙心寺派　圓福寺
千葉市稲毛区穴川町三七五　TEL〇四三（二五一）九一八一
https://www.chiba-enpukuji.com
E-mail:oshou@chiba-enpukuji.com

書院の襖絵紹介（その二）



「祖月禅風」
妙心寺派第三十代管長
松山寛恵老大師

「心外無別法」
瑞龍僧堂師家
清田保南老大師

「和気萬福を生ず」
南禅寺派第十二代管長
中村文峰老大師

「仏法無辺に広く
禅門深きこと海に
似たり」
上海玉佛寺
真禅和尚

目　次

	頁
「お通夜とお葬式のご説明」（後半）	1
「裏千家学院での学び」　小林宗美先生	8
「新命和尚のインド仏跡探訪記」⑤　バラナシの火葬場から	10
お寺と和尚の日録抄　令和八年七月～十月	15
興祖微妙大師六百五十年遠諱　大衆報恩大摂心のご案内	16
写経会の案内	18
令和七年度花園会会計報告	18
興祖微妙大師六百五十年遠諱　圓福寺団体参拝旅行のご案内	19

お通夜とお葬式のご説明（後半）



写真は寺庭婦人尚美の葬儀の時のものです

前回の寺報に引き続き、お通夜とお葬式のご説明を致します。前回はお通夜に関してのご説明を、今回は後半の「お葬式」に関してのご説明です。前回説明したお通夜は、故人のお別れの準備で、枕経や通夜のお参りや、懺悔文・三帰戒をお唱えして戒名を授与することでお別れ前の心の準備を致しました。そしてお葬式をもっていよいよ故人を送り出すこととなります。鳴らし物（禅宗の楽器）を鳴らし、故人の生涯を表す詩を唱え、引導を渡すことで故人とのお別れとなります。中でも引導の最後の一字はこの世の未練を断ち切る、いわばクライマックスとなります。それではお葬式の流れを見て行きましょう。

お葬式の意義

お葬式を厳修する意義は非常に多くあり、解釈も多岐にわたります。あえて端的な言い方をすると、故人とのお別れです。人それぞれですが、故人には多かれ少なかれこの世に未練があります。何十年も過ごした環境、何十年も共に過ごした肉体、何十年も共に過ごした親族や友人。それら沢山のものとさらりとお別れをすることは容易ではありません。しかし、人間は死ぬという性質上、いつかはこの世と別れなければなりません。それも、きっぱりと。そのため、この世の事と別れるための節目が必要になります。それがお葬式であります。禅の世界には**「前後際断（ぜんごさいだん）」**という言葉があります。過去の事と未来の事とを、未練無く切り分けて考えることで、今を前向きに過ごすことができるという考えです。明治の文豪・夏目漱石も病



夏目漱石

圓福寺のお葬式次第

一、剃髪の偈
一、鎖棺・起棺仏事
・大悲呪
・鎖棺・起棺回向
一、葬送・告別式
・龕前念誦
・十仏名
・往生呪
・鳴らし物
・引導（法語）
・世尊偈（一般焼香）
・葬送告別回向
・鳴らし物
一、初七日法要
・開甘露門（一般焼香）
・初七日回向

床の親友の正岡子規に対して「前後を切断せよ、妄（みだ）りに過去に執着するなかれ、いたずらに将来に望を属するなかれ、満身の力をこめて現在に働け」と書簡を送っております。このように、もはや過去となってしまったこの世のことへの未練を断ち切る事が大切です。そのため、故人が未練をしっかりと断ち切ってもらい、故人を送り出す儀式がお葬式です。

また、お葬式は残された人たちにとっては故人とのお別れの時間です。故人との未練がなるべく残らないようにちゃんとお別れをしなければなりません。故人とちゃんとお別れをすることで、故人のいない未来で、前向きに過ごせる様にするための大切な儀式であります。

このように、故人にとっても、残された人たちにとってお葬式を営むことは非常に大切です。

それでは流れを見て行きましょう。

一、剃髪の偈

まず引磬という小さな鐘を複数回打ち鳴らして一同の心を鎮めます。そののちに故人の頭髪を剃る動作をしながら、仏弟子としての身だしなみを調えるお参りをします。実際には頭髪を剃りませんが、頭髪を剃る動作をしながら、剃髪の偈というお経を故人と共に三回繰り返します。

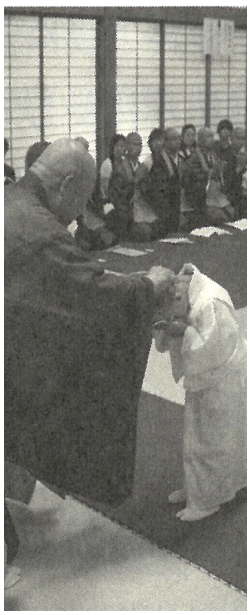
剃除髭髪　当願衆生
永離煩悩　究竟寂滅（安楽）

【意訳】髪と髭を剃り除いて
願う事は、衆生が
煩悩から永く離れ
究極の悟りを得ることです

このように頭髪を剃って仏弟子としての身だしなみを調えるお参りが剃髪の偈です。



引磬（いんきん）


本山集団得度式での剃髪の儀

一、鎖棺（さかん）・起棺（きかん）仏事

故人を送り出す為に、古来は故人を棺に入れたり、棺に蓋をしたり、最終的に棺に火を灯すまで、その行動一つ一つするたびに名残惜しくお経を唱えておりました。その風習に因んで鎖棺・起棺仏事というものがあります。これは本来は故人の入った棺を鎖で固定する際と棺を持ち上げる際にお経を唱えることです。昨今では棺はそのままでお経だけお唱えするようになっております。圓福寺では鎖棺・起棺仏事を葬送・告別式の直前の心の準備をするためのお参りとしております。

・大悲呪・回向

具体的には大悲呪と鎖棺・起棺回向をお唱えして、お別れのお参りへと臨みます。

一、葬送・告別式

・龕前念誦（がんぜんねんじゅ）

鎖棺・起棺仏事ののちに、葬送・告別式となります。まず、お別れのお参りを始める宣言である、龕前念誦をお唱えします。龕前念誦は左の通りです。

切に以みれば、生死交謝し、寒暑迭いに遷る。その来たることや、雷、長空に撃し、その去ることや、波、大海に淳まる。この日、即ち新帰元（戒名）有って、生縁既に尽きて、大夢俄かに遷る。諸行の無常なることを了って、寂滅を以て楽となす。恭しく大衆を集めて、龕幛に粛詣して、諸聖の鴻名を誦して、清魂を覚路に薦ましむ。仰憑大衆念

【意訳】考えてみると、生死というのは気候が移り変わるのと同じように繰り返されます。また、生死というのは雷が空で光る様に突然現れ、波が海に消えていくように自然と消えていく様なものです。この日は（故人）さんの生命が尽きましたが、それは故人の夢が突然覚めるようなものです。「全てのものが常に移り変わる」という事を受け入れる事で、苦しみから放たれます。謹んで皆さんにお集まりいただき、厳かな気持ちで棺に対峙して、仏菩薩のお名前を唱える事で、故人の魂を悟りの道へと導きます。皆様に（仏菩薩のお名前を）念じていただきますよう、お願いします。

・十仏名（じゅうぶつみょう）

そして仏菩薩のお名前を唱える「十仏名」をお読みします。



清浄法身毘盧遮那仏
---（悟りの思想を具現化した大日如来様）
円満報身盧舎那仏
---（悟った姿を具現化した大日如来様）
千百億化身釈迦牟尼仏
---（全ての者に悟りを伝えるお釈迦様）
当来下生弥勒尊仏
---（私たちと共に修行する弥勒菩薩）
十方三世一切諸仏
---（全ての仏様、菩薩様）
大聖文殊師利菩薩
---（大いなる智慧を司る文殊菩薩様）
大行普賢菩薩
---（大いなる実践に導く普賢菩薩様）
大悲観世音菩薩
---（大いなる慈悲を持つ観音様）
諸尊菩薩摩訶薩
---（諸々の菩薩様や偉大な方々）
摩訶般若波羅蜜
---（悟りあれ）



このように沢山の仏様や菩薩様のお名前を唱えることで、旅立ちを見守られ、安らかな気持ちで故人は旅立って行かれます。

・往生呪（おうじょうしゅ）

更にその旅立ちの十仏名に加えて、お悟りの世界に導く呪文（真言）の、往生呪をお唱えします。

南無阿弥陀婆耶（なむおみとぼやと）　哆地伽多耶（とちぎゃとや）
哆膩耶哆（とにやと）　阿弥唎都婆毘（おみりつぼみ）
阿弥唎哆（おみりと）　悉耽婆毘（しったばみ）
阿弥唎哆（おみりと）　毘伽蘭帝（びぎゃらち）
阿弥唎哆（おみりと）　毘伽蘭哆（びぎゃらと）
伽弥膩（ぎゃみに）　伽伽那（ぎゃぎゃの）
枳哆伽唎（しとぎゃり）　娑婆訶（そもこ）

【意訳（*）】阿弥陀如来に帰依します
すなわち　無量光様（阿弥陀如来の別名）
阿弥陀様　法門が成就します
阿弥陀様　皆さんを救済します
阿弥陀様　皆さんをあるレベル以上救済します
極楽世界　広大無辺な
喜んで往生を願います　幸せあれ

(*)http://blog.livedoor.jp/fotuo0/archives/37237922.html

このお経をお唱えすると阿弥陀如来が頭の上にお住まいになり、私たちを守って下さり、そして人の恨みを買うことなく、この世では安穏に、あの世にも安心して行けるようになるという功徳があると言われております。元々、このお経は念仏をお唱えする浄土系のお経で、阿弥陀如来を信仰するような内容になっておりますが、時代の変遷を経て臨済宗のお葬式でも読むようになったそうです。

そしてこの往生呪をお唱えしながら、引磬や妙鉢や鼓を鳴らします。これらの三つの仏具は鳴らし物と呼ばれる、臨済宗の「楽器」です。僧侶の人数によっては一部省略されます。そしてさらに往生呪を唱え終わると、鳴らし物を独特のリズムで打ちならします。


妙鉢（みょうはち）


鼓（く・つづみ）

この往生呪と鳴らし物の打ち鳴らしは故人を見送る為の餞別であるとともに、お釈迦様がお亡くなりになった際に天上の全ての楽曲が鳴り響いた事に因んで鳴らされます。

・引導

そしてお葬式の山場、故人を節目として引導を渡します。よくドラマなどで警察が犯人に対して「貴様に引導を渡してやる」と言っているのは臨済宗の引導が語源で、「相手にこれ以上の見込みがないと告げて、諦めさせる決断を下すこと」として使われております。臨済宗のお葬式でも故人が最後に残したこの世への未練を断ち切るために行なう仏事です。具体的には故人の生涯を漢詩で讃えます。その漢詩は故人がどこで生まれて、どのように育ち、どのような生業で、どのような事を成して、どのような人柄だったかなどを漢詩で讃えます。そして、最後に言葉にしようにもどうにも言葉にできないお別れの気持ちと、故人のこの世との未練を断ち切る言葉を一字に託して引導となります。よく用いられる言葉が「喝（かつ）」で、この一字を叫ぶ瞬間が言わばお別れのクライマックスとなります。圓福寺では払子という仏具を掲げて唱えます。「喝」等の一字を唱えるのが臨済宗の大きな特徴です。臨済宗の宗祖の臨済義玄禅師はお弟子さんへの説法の際によく喝を用いられていたという事から、今日の引導に多く用いられています。本当に伝えたい事というのは言葉にはできないものです。



禅寺のモノ知り



払子（ほっす）

葬儀などの法要の際に導師が受持する威儀具。ヤクや大鹿、馬などの毛を束ね、それに柄をつけた仏具。その起源は、修行僧が蚊やアブに修行を妨げられるのを知ったお釈迦様が、羊毛を撚（よ）ったもの、麻を使ったもの、布を裂いたもの、破れ物、木の枝を使ったものなどに柄をつけて、「払子」とすることを許したといわれています。のちに転じて、煩悩や邪悪なものを払うという意味を持つようになり、禅宗でよく用いられる荘厳具になりました。

・世尊偈・葬送告別回向（観音経普門品偈）

引導の後、この世への未練を断った故人を見送るべく、世尊偈（観音経普門品偈）というお経をお読みします。お経の概要は、観音様の力を信じて念じる事で苦しみから解放されるという内容です。このお経の最中に参列者の方々にはお焼香をお願いしております。そして葬送告別回向でもってお経の功徳を故人に託します。

・鳴らし物

故人の見送りの最後に鳴らし物を響かせて葬送・告別式が終わります。

一、初七日法要

・開甘露門・初七日回向



本来ならば葬送・告別式が終われば僧侶は退出して、棺へ花入れなのですが、昨今では引き続き初七日のお参りを行ないます。故人が亡くなってから四十九日（忌明け忌、満中陰とも）までの間、七日ごとにお参りを行なう、逮夜参り（七日参り）というものがあり、その逮夜参りの最初のお参りが初七日と言われます。その初七日の法要がお葬式に引き続き行なわれております。この初七日法要では開甘露門というお経をお唱えします。一般の皆さんにはお経を唱えている最中にお焼香を行なっていただきます。この初七日のお参りが終わりますと、小さい鐘を三回鳴らしまして、お葬式が終わります。僧侶が退出した後、引き続き棺に花入れをします。そして出棺の後、火葬場へと向かいます。火葬の直前に最後のお別れのお経をお読みして、その際にも参列者の皆さんにはお焼香をお願いしております。故人の姿が見られるのはこのタイミングが最後になります。お参りの後、火葬となり、一、二時間程度で故人の亡骸はお骨になります。お骨を骨壺に納める、収骨が終わりましたら、故人の慣れ親しんだの自宅に戻り、飾りつけをして、お葬式の一連の行事が終了となります。



お葬式のまとめ

今回はお葬式についてご説明させていただきました。やはりお葬式を端的に言いますと、故人との「お別れのお参り」であります。故人としてはこの世への未練を断ち切るお参りで、特に引導で唱えられる漢詩では故人の生前を最大限に讃えられ、導師の心の底からの「喝」という言葉と共に送り出されます。そして、残された方々にとっては故人とのお別れをする大切な機会です。心の整理を付けないまま過ごしていては、前向きには生きられません。お葬式で生前の故人に感謝するとともにお別れをしっかりしなければなりません。近年では「葬式離れ」とも言われておりますが、今一度お葬式の大切さをご理解する一助になれば幸いでございます。拙いご説明、御寛恕願います。



「喝」を発する妙心寺派元管長春見文勝老大師

裏千家学園での学び

圓福寺茶禅会講師　小林宗美

去年の八月から一年間、圓福寺の茶道稽古の「茶禅会」は休会しておりました。というのも、講師を務めていただいております、小林宗美先生が京都の裏千家学園という、裏千家の茶道を徹底的に学ぶことができる学校へ住み込みで修行をされていたためです。その小林先生が一年間の修行を終えて帰って来られ、九月から再び圓福寺の茶禅会にてお稽古をつけて頂く事となりました。さて、裏千家学園ではどのような所なのでしょうか。小林先生よりご寄稿を頂きましたので、皆さんにご紹介させていただきたいと思います。

「抹茶を飲むことをより身近に感じてもらうにはどのように伝えたらよいのか？」

その答えを探しに、裏千家学園茶道専門学校にて一年間学んで参りました。



学園は京都市上京区裏千家今日庵のすぐそばにあります。コースは茶道科（三年間）と別科に分かれ、さらに別科は一年コース（一年間）、研究科（前期課程・後期課程）となっています。校舎は鉄筋コンクリートの三階建てです。一階は八畳和室の茶室が六部屋と厨房があります。厨房には井戸があり、現在も使用しています。二階は大小の会議室、図書室と応接室です。三階は百畳敷の広間です。この広間で毎朝八時半から朝礼が行われます。朝礼が終わるとクラス毎にその日の授業内容によって割り当てられた茶室に移動して実技の授業が始まります。一限九十分で午前中二限、午後二限の授業で作法だけではなく、臨済宗妙心寺派の住職による禅語の事、茶花の事、





お香の事、歳時記の事、懐石料理の事、露地の事等多岐にわたり学びます。私は研究科に在籍し、裏千家茶道のすべての実技課目を更にもう一歩踏み込んだ奥深い事も学びました。



懐石料理・・・お茶事の際に客に提供する料理

茶道は客人をもてなす作法、庭や茶室などの俗世間から離れた空間、茶道具などの工芸品、懐石料理や和菓子などあらゆる伝統文化要素が備わっております。室町時代から発展を続け、受け継がれ今や世界的にも注目されています。抹茶とお菓子をいただけるけれど敷居が高いとか難しいと思われがちです。それはお客様をおもてなしする姿勢と、それを受ける客の姿勢に堅苦しさを感じるからだと思います。その障壁をなくし、茶道を身近に感じてもらえるように、一つ一つ丁寧な取り組みを発信していくことがこれからの茶道の発展に通じると思いました。



露地・・・茶室に付随する庭、茶庭

圓福寺で京都の空気を感じながら、季節のお花やお茶菓子で心落ち着くひとときを過ごしてみてはいかがでしょうか？　正座ができなくても大丈夫です。お待ちしております。

小林宗美



圓福寺の茶禅会の風景

茶禅会

【日時】
毎月第二・第四月曜日午前十時～

【会費】
月五千円
（花園会員には二千円補助）

【講師】
裏千家　小林　宗美先生

【服装】
白い靴下（それ以外は自由。）

【用意するもの】
裏千家用の扇子・帛紗・懐紙
（茶禅会で購入も可。）

【定員】
五～六名

【申込】
お寺までご連絡を！
ご不明な点など、何なりとお寺までお問合せください。





新命和尚が行く

インド仏跡探訪記

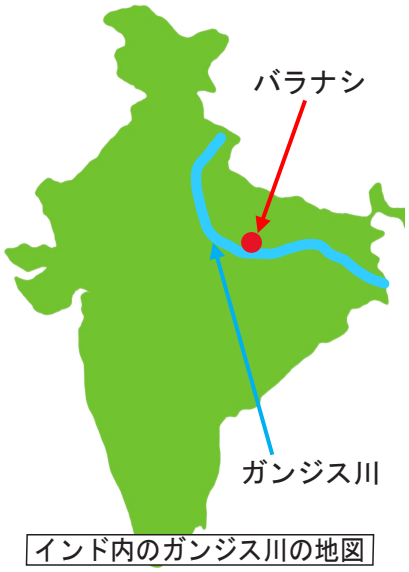
ぶらり

第5回バラナシの火葬場

インド探訪をしてから一年以上も経過しました。自分の中のインドでの経験の大部分が美化されて、「もう一度インドに行きたい」という気持ちが高ぶっております。インドの観光地でポピュラーなものを二つ揚げるとしたら、バラナシのガンジス川とターマハルかと思います。どちらも仏教との関係が深くはないところではあります。しかし、バラナシで数日間過ごしてみて、仏教徒の端くれとしていろいろと感じることが有りました。バラナシの町を深堀ってご紹介すると共に、インドと日本の違いをご紹介したいと思います。

バラナシのガンジス川とは

ヒンドゥー教の聖地として有名なバラナシのガンジス川。バラナシと言いましたが、読み方の違いでワラーナシーともヴェナレスとも言われますが、ここではバラナシと書かせてもらいます。ガンジス川はヒマラヤ山脈を水源としてインド、バングラディシュに渡り、約二五〇〇㌔もの全長があります。なぜヒンドゥー教で「聖なる川」として扱われているのかと言いますと、ヒンドゥー教の言い伝えで、ガンジス川はシヴァ神という神様の髪の毛であるため、言われております。その「聖なる川」



インド内のガンジス川の地図

のガンジス川の水を浴びれば、全ての罪は浄められ、そして遺灰をこの川に流せば永遠に繰り返される輪廻から解き放たれると信じられております。また、バラナシではガンジス川が南北に流れ、土地を東西に分断していることから、縁起が良いとされ、長いガンジス川の中でも特段ありがたい場所とされます。そのためヒンドゥー教を信仰するインド人にとって、バラナシのガンジス川と言うのはとても神聖でありがたい場所とされております。


バラナシのガンジス川

ガンジス川の沐浴

ヒンドゥー教徒は主にインド人で、世界に十一億人以上いると言われており、世界で三番目に信仰者の多い宗教です。その十一億人ものヒンドゥー教徒が人生に一度はバラナシのガンジス川で沐浴をしたいと願いますので、バラナシは沐浴をするヒンドゥー教徒であふれかえっておりました。静かに沐浴をする人、水遊びをする子供、口に含んで体内も浄める人、容器に入れて持って帰る人、人それぞれにガンジス川を信仰しております。私がバラナシのガンジス川に着いたとき、その人それぞれにガンジス川を信仰する、エネルギーにあふれた姿に心を打たれました。そして私はインドに行く前は「せっかくバラナシに行くのだから、ガンジス川で沐浴を」と思っておりました。しかし実際にガンジス川を目の前にすると、申し訳ありませんが、私は沐浴をしようとはどうしても思えませんでした。まず川べりのいたるところ


ガンジス川で沐浴をする人々

で排泄物の匂いがしており、ガンジス川には水上トイレが浮かんでおり、川にはゴミが沢山浮かんでおり、ミルクティーのような色合い、どの旅行ガイドブックを見ても衛生の観点から絶対に入らないようにと書かれておりました。そのため私はどうしても沐浴する気にはなれませんでした。しかし、ガンジス川の水を浄化した水がバラナシの町の水道水として使われているということでした。その水道水を使ったバラナシの宿で私はシャワーを浴びたので、私はガンジス川（の水を浄化した水）で沐浴をしたと言うことにしております。



バラナシの街の様子

幸運にも泊まったゲストハウスのバダルさんと言う方に、バラナシの街をガイドしてもらいました。観光客相手のエネルギーにあふれた物売りが沢山いるバラナシの街の中で、様々なヒンドゥー教寺院、イスラム教徒の地区を周り、その道中ではところどころに野良牛や野良犬が道をふさいでおり、フンや生ごみも大量に道端に落ちておりました。赤いフンも沢山ありましたので赤痢に感染した動物も沢山いたようでした。そしてそのすぐ近くで昼寝をするインド人。とにかくカオスな街並みで、バラナシのインド人は人の眼を気にせず、とにかく自由な様子でした。一緒だった日本人がフンを踏むとガイドのバダルさんはニコッと笑って「ようこそバラナシへ」と言っており、フンを踏むのは日常的なことのようでした。



道をふさぐ野良牛

バラナシの火葬場

ガイドのバダルさんについていき、ガンジス川沿いの説明を聞いていると大きな焚火がありました。周りには何人もインド人が取り囲み、そのすぐ横を通行人が歩いていく。バダルさんの説明によ



バラナシの街の様子


火葬用の薪

ると、その焚火は火葬の炎とのことでした。バラナシの火葬は「野焼き」と呼ばれる方法で、台の上に装飾品と遺体を一緒に布でくるんでその上に大量の薪を置いて火をつけるという方法です。一体を火葬するのに三から五時間かかり、薪も多くて百キログラムほど必要とのことでした。そして身分によっては生焼けの状態で終わらせる場合もあるそうです。そして火葬が終わったら残りの灰や遺骨はガンジス川に流してしまうそうです。インド人にとって神聖なガンジス川に遺骨を流されることで全ての罪は浄化され、輪廻から解き放たれると信じられているので、最大の喜びと言うことなのでしょう。これがバラナシで最も印象に残ったことでした。観光客や通行人が沢山歩いているすぐ横で亡くなった人がいる。そしてそれに対して通行人は見知らぬ顔で歩いて過ぎていく。燃やされた遺骨が流されるガンジス川は前述のようにたくさんの人が沐浴をしており、すごい匂いもする。日常に「死」というものがこれほど近いということには非常に驚きました。



日本との比較

インドとは逆に日本で亡くなった人がいると、古来では穢れたものとして扱われ、日常から遠ざけられるていたものです。遺体をしばらく放っておくと腐敗臭がしたり、虫が湧いたりして感染症まで起こす可能性がありますので合理的と言えば合理的です。他にも私たちの感覚として「遺体には亡くなった人の霊的な物が宿っており、遺体を邪険に扱うと祟りが起こりそう」というような認識が何となくあるかと思います。現在では遺体はあまり穢れたものとしては扱われませんが、日本では依然として日常から遠ざけられており、火葬場は町から外れた場所にあり、墓地も町から離れた場所に多くあります。このように日本では日常から「死」を遠ざける様な風習になっており、バラナシでの「死」の近さとは真逆の風習となっていることを感じました。



死を感じるからこそ生を感じる

仏教の古来からの瞑想の一つに「**不浄観**」と言うものがあります。

それは遺体が朽ちていく様を見つめ続けるという瞑想です。遺体が膨張したり腐ったりしながら白骨化する様子を見ることで、自分を含め人間と言うものは綺麗な物ではないということや、無常を感じることで、自分の肉体への執着を断つという修行方法です。しかし実物を観て行なうと感染症などの恐れがあるため、江戸時代に日本では**「九相図」（くそうず）**という絵が描かれました。これは遺体の朽ちていく様子を九段階にわけて描いた物です。興味がある方はネットで調べてみてください。日本ではこの九相図を観ながら不浄観を行なったと言われております。他人の死を自分の事としてとらえることであらゆる煩悩を払えるということになります。そしてその「死」を感じるからこそ、逆の「生」である今の自分というものを感じることができるということになります。死を感じるからこそ、より強く生を感じる。インドのカオスでエネルギーにあふれている様子はまさにこれが当てはまる様に思います。「死」と言うものを隠したり遠ざけたりするのでなく、近くに感じているからこそ、今を精いっぱい生きようと思え、エネルギーにあふれたインドという雰囲気を作っているのだと思います。





法要の意義

「死」と言うものを遠ざける日本において、「死」を感じるときはいつでしょうか。多くの人は知人や身内の方のお葬式や法要ではないでしょうか。前日からお通夜を営み、故人の「死」を受け入れる心の準備を丁寧に行い、お葬式をすることで故人の「死」を自分の心の受け入れ、火葬では亡骸とのお別れするとともに人間は肉体という物という側面であることを認識して、年忌法要をすることで故人を悼むとともに自分自身に「死」という存在を再認識させる。このようにして法要というのは、「死」という誰にでもいずれやってくる存在を見つめる大切な行事であります。「死」を感じることで「生」である今を精いっぱい生きようという気持ちを新たにする。そんな大切な機会でもあります。そんなことをエネルギーにあふれたバラナシの火葬場から感じたところであります。



清水寺　森清範貫主ご染筆　「命」

令和8年7月～10月期
お寺と和尚の日録抄

7月
3日　幼稚園、誕生会
3日　月例役員会
4日　幼稚園、市原ボランティア「Q園隊」
5日　山門大施餓鬼
9日　スマートコミュニティ「写経講座」
13～15日　棚経
16日　幼稚園、終業式
17、18日　幼稚園お泊り保育
23日　スマートコミュニティ「写経講座」
25日　禅童会中止→反省会
8月
1日　幼稚園、市原ボランティア「Q園隊」
2日　写経会
3、4日　住職、宮古島金剛寺葬儀参列
7日　月例役員会
10日～15日　棚経
22日　地蔵盆、幼稚園みたままつり
25日　妙心寺派東京教区第七部定例会議
27日　スマートコミュニティ「写経講座」
29日　幼稚園、市原ボランティア「Q園隊」





→地蔵盆の様子

↑施餓鬼の様子



←ふくちゃんと親戚のワンちゃん達

9月
2日　幼稚園、誕生会
4日　幼稚園、誕生会
4日　月例役員会
5日～8日　岩手霊桃寺、三回忌加担
6日　写経会
10日　スマートコミュニティ「写経講座」
26日　土曜会、市原別院にて栗拾い
28日　茶禅会
10月1、2日　住職、平林寺齊会出頭
2日　月例役員会
3日　土曜会、堅破山へハイキング
4日　写経会
8日　スマートコミュニティ「写経講座」
10日　幼稚園、運動会
14日　幼稚園、誕生会
15日　幼稚園、だるま忌



→栗拾いの様子

↓堅破山の様子





→堅破山の登山の様子

興祖微妙大師六百五十年遠諱 大衆報恩大摂心のご案内

臨済宗妙心寺派では、来年三月末日まで、妙心寺第二世興祖微妙大師六百五十年遠諱大法会を厳修しております。

このたび、この遠諱を記念し、下記の要項にて「大衆報恩大摂心」を開催いたします。

皆様のご参加を心よりお待ち申し上げます。

記

日　　時　令和９年３月５日(金)～７日(日)　２泊３日(妙心寺本坊泊)

詳細は左頁の表をご覧ください

会　　場　大本山 妙心寺 (京都市右京区花園妙心寺町)

参加資格　坐禅経験者（18歳以上）※僧籍をお持ちの方はご遠慮ください。

参 加 費　20,000円（当日受付時、現金にてお納めください。）

※大学生15,000円（学生証の提示が必要です。）

募集定員　100人 ※定員に達し次第、締切とさせていただきます。

申込方法　**圓福寺にてとりまとめをしておりますので、**
お申し込みの際は圓福寺までご連絡お願い致します。

※参加者には改めて詳細をお送りいたします。

募集締切　令和８年12月18日（金）

以上

ご不明な点などございましたら、下記までお問合せください。

興祖微妙大師
650年
遠諱大法会

少水魚有楽
いまここを生きる しあわせ

〒616-8034
京都市右京区花園木辻北町１
妙心寺派宗務本所内 遠諱事務局
TEL 075-463-3121　FAX 075-464-9586
EMAIL mimyodaishi650@myoshinji.or.jp

大衆報恩大摂心日程表

3月5日(金)		
15:00～15:30	受付	大方丈玄関
	安単	本坊各所
16:00	摂心説明	大方丈
18:00	薬石(夕食)	微妙殿
19:00	総茶礼	大方丈
	亀鑑拝読　摂心告報	大方丈
	坐禅	法堂
22:00	解定(就寝)	本坊各所
3月6日(土)		
5:00	開静	本坊各所
5:30	朝課	法堂
6:00	参禅・相見	各参禅場所
	坐禅	法堂
7:30	粥座(朝食)	微妙殿
9:00	提唱	大方丈
	坐禅	大方丈
11:30	斎座(昼食)	微妙殿
13:00	写経	微妙殿
14:00	公開講座	大方丈
15:30	参禅・相見	各参禅場所
	坐禅	大方丈
17:00	薬石(夕食)	微妙殿
18:30	参禅・相見	各参禅場所
	坐禅	法堂
20:00	開浴	本坊・花園会館
	坐禅	法堂
21:00	茶礼	各所
22:00	解定(就寝)	本坊各所
3月7日(日)		
5:00	開静	本坊各所
5:30	朝課	法堂
6:00	参禅・相見	各参禅場所
7:30	粥座(朝食)	微妙殿
9:00	作務	本坊各所
9:30	分散茶礼	大方丈
10:00	下山	

参禅・相見

妙心寺派管長
　霧隠軒　山川宗玄老師

妙心寺塔頭　龍泉菴住職
　古月庵　桝田宗隆老師

妙心寺塔頭　聖澤院住職
　漾碧庵　藤原宗欽老師

妙心僧堂師家
　道雲窟　島田大拙老師

各老師に１度ずつ参禅または相見いたします。

粥座(朝食)・斎座(昼食)
薬石(夕食)

禅の作法に則ったお食事です。
作法は当日ご案内いたします。

解定(就寝)

妙心寺本坊の大部屋にて男女別の宿泊になります。

※二泊三日の摂心となりますので、体調に十分ご留意の上、ご参加ください。

写経会

般若心経を写経いたします。大きめな字でお手本が印刷された、とても書きやすい写経用紙を使用しています。
お道具の準備から毛筆の基礎なども親切にご指導いたします。

【日時】
十一月一日
（基本的に第一日曜日、
令和九年分は二月から）

【会費】
一期五回で、花園会員三千円
非会員は五千円

【講師】
斉藤　加代子先生

【用意するもの】
小筆、硯、墨
（初参加の方は貸出します）

【定員】
二十名ほど

【申込】
お寺までご連絡を！
ご不明な点など、
何なりとお寺まで。




暑い日にかくれんぼ中のふくちゃん

令和七年度花園会会計報告

令和7年４月１日～令和8年３月３１日

	科目	金額	備　　考
歳入	前年度繰越金	¥327,921	
	お寺より活動費	¥1,490,000	
	行事収入	¥1,704,030	写経会、地蔵盆、涅槃寄席、新年会ほか各種行事参加費
	雑収入	¥1,067	預金決算利息など
歳入合計		¥3,523,018	

歳出	宗派賦課金	¥157,000	本山納付花園会費
	行事費	¥1,893,691	写経会、茶禅会、仏教シアター、禅童会、四国あるき遍路ほか各種行事
	慶弔費	¥44,000	花園会役員吉村利晴様(供花)、前花園会役員塩月様の奥様(供花)
	事務費	¥594,140	行事案内印刷費郵送費、事務謝礼
	研修費	¥122,960	本山妙心寺役員研修会参加(3名)
	会議費	¥274,356	月例役員会
歳出合計		¥3,086,147	

差引残高　¥　436,871　は次年度繰越金としました。

妙心寺 微妙大師 650 年遠忌法要参拝旅行　旅程

月日・曜日			旅程案	食事と宿泊
1	令和9年3月23日	火	8:01 品川駅 → のぞみ327号 → 10:09 京都駅着 コインロッカーに荷物を預ける 10:41発 近鉄京都駅 → 10:59着 桃山御陵前駅 徒歩 約1.5km **【伏見観光ウォーキング】** 伏水酒蔵小路・キザクラカッパカントリー・竜馬通り商店街 & 寺田屋など 12:15頃 昼食「月の蔵人」にて 13:00発 徒歩 約1.0km 15:00頃 **明治天皇陵参拝後、伏見桃山城** 徒歩 約1.2km 13:30発 月桂冠大倉記念館 徒歩 約2.4km 15:30頃着 近鉄丹波橋駅 近鉄京都線 → 近鉄京都駅 徒歩 約0.8km 17:00 ホテル着 徒歩 約0.4km 18:30 夕食	昼食：京の台所「月の蔵人」 月桂冠の酒蔵を改装した和食処 夕食：町家空間「京あかり」 ホテルから徒歩圏内の居酒屋 宿泊：アルモントホテル京都 京都市南区東九条西岩本町２６-１ 075-681-2301
2	令和9年3月24日	水	ホテル出発 → 徒歩 約0.4km → 9:27発 京都駅 嵯峨野線 → 9:49着 花園駅 → 徒歩 約0.5km 10:00 妙心寺にて受付開始 11:00 **微妙大師遠忌法要（法堂にて）** 12:30頃 妙心寺にて昼食（場所未定） **山内寺院特別拝観（2ヶ寺ぐらい** 徒歩 約0.5km → 花園駅 嵯峨野線 → 京都駅 徒歩 約0.4km ホテル帰着・小休止 18:00 夕食	昼食：妙心寺山内にて 微妙大師遠忌特別料理 夕食：韓国料理「尹家」 サムギョプサル食べ放題の韓国コース料理 宿泊：アルモントホテル京都 京都市南区東九条西岩本町２６-１ 075-681-2301
3	令和9年3月25日	木	9:15 ホテル出発 徒歩 約0.3km コインロッカーに荷物を預ける 9:59発 京都駅 JR奈良線 → 10:22着 黄檗駅 徒歩 約5分 10:30 **萬福寺拝観** 萬福寺にて「普茶料理」の昼食 昼食後自由。京都駅への途中に、伏見稲荷や東福寺などがあります。各自新幹線に乗車してください。 16:01→18:08 のぞみ32号　品川着	昼食：黄檗宗本山萬福寺にて 中国風精進料理

妙心寺 微妙大師650年遠忌法要

参加者募集

2027.3.23～25



私たちの本山妙心寺第二世微妙大師の650年大法要への特別参拝の旅を計画いたしました。法要後には、妙心寺にて大法要限定の昼食をいただき、午後には普段公開をしていない山内の寺院を拝観する貴重な機会となります。

また、24日の大法要に先立つ初日には、大河ドラマ「豊臣兄弟」ゆかりの伏見桃山城を訪れ、城下の歴史的な伏見の街を散策します。大法要後の三日目には、中国仏教の影響を色濃く残す黄檗宗萬福寺を参拝し、伝統的な黄檗宗の精進料理「普茶料理」（ふちゃりょうり）を召し上がっていただこうと思っています。

この特別な機会に、私たちの本山への参拝と伏見の魅力を体験しにお出かけになりませんか。魅力あふれる二泊三日をお楽しみいただけることを心よりお待ちしています。


風情ある伏見の街並み


伏見桃山城


普茶料理

交通手段：新幹線・在来線・徒歩
宿　　泊：アルモントホテル京都（京都駅八条東口徒歩５分）連泊
募集定員：限定20名
費用概算：85,000円（新幹線往復・本山参拝料・食事代・ホテル代を含む）
※本山団参につき、花園会員には東京教区と第七部からそれぞれ5,000円の補助。
また、第七部各寺では参加者へ団参奨励金として10,000円補助することになっております。
参加費用：圓福寺花園会員は65,000円、会員外は75,000円となります。
参加申込：お電話・メール・ファックスなどでご連絡ください。
人数が限られているので、先着順とさせていただきます。

臨済宗妙心寺派 圓福寺
圓福寺花園会

※詳細の旅程は 19 ページをご覧ください